

フラッグフットボール分科会

基調提案

「フラッグフットボールで、何を、どう教えるか」

大後戸一樹（広島支部 広島大学附属小学校）

実践提案

「フラッグフットボールのおもしろさに迫るために」

八田篤司（滋賀支部 長浜市立南中学校）

「忍者ゲーム（フラッグフットボール）を通して ～ M君が成功したよ～ 」

領家 剛（滋賀支部 余呉小学校）

研究報告

「体育授業における『組織・集団領域』の指導試案

～ スポーツ大会の企画・運営・総括を系統的に学習するには～ 」

神谷 拓（愛知支部 岐阜経済大学）

参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・フラッグフットというと、しっかりところしなればというルールがあると思っていましたが、指導者が子どもたちの実態を見て、また、こんな子どもたちになってほしいという願いをもってルールをつくっていくものであると知った。

今日のレポートでは、1コマ1コマのねらいがはっきりしていたので、明日の実技も含めて、自分のクラスのイメージを膨らませたいと思いました。（京都・Sさん）

・お二人の実践報告を聞いて、子どもたちにつけさせたい力によって、学習の方法が違ってくると実感しました。教師が1時間1時間の授業で子どもに何を学ばせるか、めあては何かを明確にする必要があることを今日の分科会で学びました。（滋賀・Nさん）

・「なぜフラッグフットボールするのか。」「フラッグフットボールの特性は何か？」という疑問にお答えいただき、大満足です！

実技と合わせて、色々と議論もさせていただいて、早く実践したいと思いました。

(東京・Oさん)

・体育の授業で行われる種目一つでこんなに熱く深く語り合えるとは思っていませんでした。議論の中で自分自身思うことがたくさんあったのですが、発言する勇気がなくて残念でした。

(学生に話をふる場がほしいかもしれません...。)

フラッグフットボールの位置づけ、知識、もっと開発していける、学ばなければならないと思いました。実践すれば生徒もそのように思うのではないのでしょうか。(兵庫・Kさん)